

目 次

日本語版まえがき

はじめに	1
政治文化の研究方法与アメリカ民主主義の精神	9
マックス・ウェーバーを使って——アメリカの政治文化の過去と現在、そして未来	11
アメリカ政治文化の中心のなかたちと長期にわたる軌道	13
本書概観	15
第1章 基盤 I	21
——初期アメリカ政治文化における 禁欲的プロテスタント主義の礎石	
現世支配の個人主義とその宗教的起源	22
共同体活動とその宗教的起源	26
第2章 基盤 II	33
——植民地アメリカ、初期アメリカ合州国と それ以降のプロテスタント小宗派	
『プロテスタントの倫理』をこえたプロテスタント小宗派	36
小宗派と教会	37
小宗派の社会・心理的原動力——「自らを背負う」個人主義、同調性、生 活の規律合理的な組織化	39
清教小宗派——民主的統治、良心の自由、世俗の権威との対立	43

第3章	アメリカ政治文化の集団を形成する「際立った力」	46
	——小宗派から19世紀の市民団体、市民活動圏、 そして実践倫理的行動へ	
	「アメリカ社会は砂山ではない」	48
	会衆価値観の社会への拡張と市民活動圏の形成	50
	公的理念と市民倫理の維持——「実践倫理的行為」と新しい共生的二元性	52
第4章	19世紀後期から20世紀初期の政治文化	57
	——強い個人と小さな国家の組み合わせ	
	工業化するアメリカの国家観	58
	工業化するドイツの国家観と実践倫理的行為の異なった場から アメリカの独自性をあぶりだす	61
第5章	ウェーバーのモデル	65
	——20世紀におけるアメリカ市民活動圏の解体	
	現代社会は鉄の檻？	66
	ウェーバーのモデル——市民活動圏の解体	72
第6章	補完的モデル	79
	——ウェーバーのモデルの展開	
	一般化モデル——市民活動圏の持続性	80
	職業団体モデル——小宗派伝統の移転と限定	84
	闘争モデル——挑戦を受ける市民活動圏	87
第7章	結 論	94
	——アメリカ民主主義の精神の過去・現在・未来： マックス・ウェーバーの政治文化分析	
	議論の再検討	97
	特異なアメリカの事例から学べること？	101
	政治文化研究とウェーバーの分析様式	104

補記Ⅰ ウェーバーのアメリカ旅行——見聞とその成果 …………… 113

補記Ⅱ 『プロテスタントの倫理と資本主義の精神』——要約 …… 121

用語解説 …………… 131

参考文献

訳者あとがき